

あしきた町議会だより

うたせ

第16号

平成21年2月13日発行

発行／熊本県芦北町議会 編集／議会広報特別委員会 TEL(0966) 82-2511・FAX(0966) 82-2894

復活した花岡東子ども獅子舞

- 12月定例議会…P2～4
- 町村議会広報研修会報告…P5
- 町長所信表明…P6
- 一般質問…P7
- 新議員紹介…P8



12月定例議会

12月定例議会は、12月11日に招集され、12日までの2日間の会期で開催した。

上程された議案は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づく芦北町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の報告1件、平成20年度一般会計予算はじめ、国民健康保険事業、介護保険事業、町有温泉事業特別会計に係る補正予算4件と、芦北町地域資源活用総合交流促進施設条例の制定及び芦北町課設置条例ほか条例の一部改正4件、水俣・芦北広域行政事務組合の共同処理する事務及び規約の一部変更ならびに町道の路線廃止及び認定と、海浦漁港改修工事請負契約の変更など合計14議案で、いずれも慎重審議の結果、全会一致で原案通り可決した。

また人権擁護委員の推薦につき意見を求める諮問2件についても原案通り答申することとし、陳情2件、請願1件については所管の常任委員会に付託した。

一般質問には、1議員が登壇し、執行部の考えをたてた。

可決した補正予算

会 計 名	補正額 (増減)	補正後の総額
一 般 会 計	1億5323万6000円増	101億7436万5000円
国民健康保険特別会計	161万2000円増	31億 424万9000円
介護保険特別会計	487万6000円増	18億5195万9000円
町有温泉特別会計	134万円増	1億 94万円

○補正予算の主な内容（一般会計）

- ・農村環境改善センター改修工事実施・耐震補強設計委託料 1,057万円
- ・芦北町木造住宅建築支援事業補助金 500万円
- ・自立支援給付費（介護給付費・訓練等給付費） 2,857万円
- ・岩崎グラウンド整備費（敷地造成工事） 3,338万円
- ・消防施設費（防火水槽設置工事・小型動力ポンプ購入費等） 1,164万円



岩崎グラウンド（大字田浦町地区）

Question

～質疑から～

改善センター改修工事の 進捗状況は？

質

農村環境改善センターの改修事業として、実施建設及び耐震補強設計で1056万円計上してあるが、基本構想と現在の進捗状況はどうなっているのか。

までの工期となっている。

内容については、空調、照明、音響が大きな改修で、会議室等の破損修理も含まれている。

答

整備検討委員会を過去6回開催し、その基本方針を基に平成20年12月末に基本設計業務を終了する予定である。

実施設計業務委託費が941万円で、1月から3月まで実施し、耐震補強設計業務委託費が115万円で1月から7月までの実施というところで相互に検討しながら進めるため併せて7月



改修される農村環境改善センター

質

芦北町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の報告についての説明の中で、学識経験者と有識者であるが、その違いは何か。

また、1名を委託するとなつてはいるが、どなたを委託するのか。

答

学識経験者は有識者に包含されると認識している。

有識者については、前佐敷中学校長の浅野亮一氏を委託している。

質

この報告については、平成19年6月の地教行法の一部改正で新たに設けられた規定によって、当該年度の主要な施策や事務事業の取組状況について、有識者の知見を活用した点検評価を報告するものであつて、今年度は、12月定例議会に報告がなされたが、来年度はいつ報告される予定か。

答

文科省の指導により、来年度は9月定例議会に提出したいと考えている。

(略称)交流センター の利用計画は？

質

芦北町地域資源活用総合交流促進施設（略称「交流センター」）の進捗状況と年間の利用計画（利用者試算）は、どうなっているか。

答

工期は、平成21年1月20日までとなつてい

る。
利用計画については、地域外利用が49・6％、約4500人、地域内利用が50・4％、約4600人を見込んでおり、合計して9100人で計画をしている。



完成した交流センター

陳情・請願を所管常任委員会へ付託

件 名 (要 旨)	陳 情 者	付 託 先
向町地域水害対策事業について	向町区長 坂井美善氏ほか23名	建設経済
県産木材の需要拡大についての要望書	水保・芦北地域木材需要拡大協議会会長 小崎修市氏	建設経済
田浦字旧牧共有林を町保安林として買取る ことに関する請願について	田中一幸氏 ほか9名	総 務



水害対策が望まれる向町地域



旧牧共有林

課設置条例の改正を可決

13課1室42係から11課4室37係へ

本町が進めている行政改革の基本方針を踏まえて、組織権限に関する見直しを行った。

組織の再編にあたっては、町民の立場からの視点、施策の推進の視点、職員の勤労意欲を高める視点の3つの視点から見直しを行っており、平成20年4月現在の13課、1室、1支所、4局、42係、21施設を、21年4月より11課、4室、1支所、4局、37係、21施設に再編される。

再編の主な内容は、まず1つ目が税務収納課を税務課に改め、同課に地籍調査課に代わり、地籍調査室を設置し、連携の強化を図る。2つ目が住民生活課に、環境衛生に代わり、環境対策室を設置し、町民の利便性の向上を図る。3つ目が水道課を上下水道課とし、事務の効率化と町民の利便性の向上を図る。4つ目が総務係に人権関係を集約する。また、総務課管理係を管財係に統合し、事務の効率化を図る。5つ目が企画財政課に施策推進室を設置し、施策推進の明確化を図る。6つ目が建設課都市計画事務係、用地係、高速交通対策係を統合して、計画係として建設課に設置し、事務の効率化を図る。7つ目に農業委員会と農林水産課の連携を強化し、農業委員会事務局長については、農林水産課長が兼務すること、町民の利便性の向上を図る。また、事務局を本所に移転し、現在の農業委員会事務局跡には、地籍調査室を移す予定となっている。

附則として、この改正した条例は平成21年4月1日から施行する。

人権擁護委員に2氏を推薦



吉尾和明氏(吉尾地区)

平成15年より人権擁護委員として法務大臣から委嘱され現在2期目。現在、吉尾区長も兼務。



濱田辰喜氏(井牟田地区)

本町職員として長期にわたり奉職され、平成17年の合併時には、旧田浦町の総務課長。

平成19年3月に田浦基幹支所長を最後に退職。

町村議会広報研修会報告

平成20年11月5日に県町村議会議長会の主催により、熊本県市町村自治会館において、県内町村を対象に研修会が開催されました。

今回の研修会は、広報コンクール講評・講演・パネルディスカッションの順番で行われ、まず、第9回広報コンクール講評については、熊目NIE（教育に新聞を）推進室長の越地真一郎氏（小田浦地区出身）が、審査の方法について、①内容（構成・テーマ）②見やすさ（デザイン）③記事（表現力）について、

3人の審査員により、この3項目を各10点の30点満点で評価したとの説明がありました。

次に入賞町村の共通点というところで、「読む側の立場に立つ」という基本。サービス精神、「自己満足より読者の満足度」「追跡や企画、提案型の記事」をあげられ、それぞれの町村の特徴を述べられました。

次に読み手の変化というところで、「玄人と素人が逆転の時代」となっており、「住民目線」のレベルアップを認識した紙面づくりの必要性を述べられました。

また、住民に最も関心がある「予算」「一般質問」などの内容については、数字紹介だけでは住民には分かりにくい、見出しに「〇〇について」のパターンが多く、具体性に欠けるなど詳細な指摘や企画、提案型のススメということ、検証「追跡リポートあんどきん質問したのは

どきやんだった」などは、住民の「知りたい権利」に応える好企画。お願いとして、モニター制度など第三者の目を入れる。その座談会なども掲載。「議会広報はこんなもん」という思い込みを捨てる。チャレンジ精神で住民が驚くような内容もという話がありました。

次に、「読み手に伝わるテクニク」という演題でクリイティブディレクターの佐々木貴子氏による講演が行われました。主な内容は、表紙で意識付けする事が大事で一言そえる。書体については、

一面面で色々と使わないこと、読者側にすれば、4書体ぐらいまでが読みやすい。メリハリをつけることで紙面全体が見やすくなる。それは、紙面の中に目の入口、出口を意識して付ける。ゆとりを持たせること。色についても、カラーが見やすく、伝えやすくなるが使いすぎることで見にくくなる。色については、色を使うところ、抑えるところを作るところを意識すること、違ってくる。空いているところを作り、読み手側の立場で目線を意識する事が大事という話があり、より読みやすい広報紙作成における基本についての講演は素晴らしいものでした。

次に、今年度の広報コンクールにおいて、特選（大津町）及び入選（長洲町・西原村）受賞の広報委員長をパネリス、越地氏をコーディネー

ターに「住民目線の議会広報紙を目指して」のテーマでパネルディスカッションがありました。各委員長から自己紹介を兼ねて、広報紙を作成する中で何に重点を置いているか編集する時の工夫や苦労についての話は、身近な問題として町民の皆さんに読んでいただくことは大事な事であり、広報紙を作成する中で大変参考になりました。

今回の研修会により、私達広報特別委員会委員も研鑽し、ぜひ、次回は入選する内容の広報紙づくりをとの思いを強く致しました。



越地真一郎氏



佐々木貴子氏

町村議会広報研修会



パネルディスカッション

第1回臨時議会

町長の所信表明

平成21年第一回臨時議会は、2月9日に招集され、1日間の会期で開催した。

町長選挙後初の臨時議会ということで、町長所信表明に続き、議案が上程された。

上程された議案は、国からの定額給付金給付に係る、平成20年度一般会計補正予算1件についてで、審議の結果、全会一致で可決した。

また、教育委員会委員の任命につき同意を求める同意3件について議決され、選挙管理委員会委員及び補充員についても選出を行った。



竹崎 一成町長

私は、先の町長選挙におきまして、当選という栄に浴し、1月23日付けをもって合併2期目の町長に就任いたしました。これもひとえに議員の皆様をはじめ町民各位の御支援・御厚情の賜であり、改めてここに深く感謝を申し上げます。

ご承知のとおり、新世紀初頭に当たり、時代の変遷と社会構造の変革とともに、地方の権限と責任がますます拡大して行く中で、新たな時代の要請にこたえるべく、旧芦北・田浦両町は合併という道を選択したところであります。

今回の選挙は、合併後初めての実質的な選挙戦となりましたが、多くの町民の方々は、安定した政局の上に継続的發展を望んでおられたのであります。

言うまでもなく、合併は単なる行政の効率化を目指すものではなく、新たな町づくりの始まりでもあり、今こそ、旧両町民は力を合わせ、心をひとつにして、目指す町づくりに取り組まなければなりません。

これからの4年間、新町建設10か年計画と私がお示しました「ローカルマニファエスト」との整合を図り、県下に誇る健全財政を堅持しながら、中期計画を実行に移して行くこととなります。

私は、旧芦北町長、合併初代町長としての実績とこれまでの経験をもとに、2万町民の代表として、その責任の重、且つ大なることを常に忘

れず、初心に返り「いい町をつくるため、町民の皆さんが他に誇れる町をつくるため」、そして何よりも「すべては子ども達のために」百般の政策・事業を展開し、「品格あるまちづくり」に勇往邁進する所存であります。

もとより微力ではございますが、お寄せいただきました信頼と期待にこたえるべく、ここに「芦北新時代」を宣言し、こん身の情熱を捧げてまいります。

行財政改革への取り組みと その成果について



川尻議員



統合した湯浦保育所

行財政改革の集中改革プランを策定してから3年を経過しようとしている。
町長の任期最後の定例会において、この集中改革プランへの取り組みの総括が必要と考え、改めて行政改革を推進するに当たっては、住民と協働して、首長のリーダーシップの下に、危機意識と改革意欲を、首長と職員が共有して取り組むことが求められている。

質

行財政改革実施計画の状況とその成果はどうか。

答

町長

実施計画書に基づく改革事項57件のうち、現在まで実行した改革事項は34件であり、全体の60%となっている。残りの23件は、本年度13件、21年度9件、22年度1件を実行する計画である。

質

その成果は、平成17年度から平成19年度まで3億2862万円の効果が上がっている。
平成20年度における主な取り組みと、その結果は具体的にどうなっているのか。

答

町長

平成20年度は17件の改革事項を実行する。主なものに、職員旅費の見直し、公立保育所の統合、小・中学校の再編、簡易水道事業の民間委託の推進4件実施済み、補助金、負担金の見直し、職員の情報共有体制の整備、職員スケジュール管理体制の整備3件が実施準備段階、文書管理体制の整備など10件が検討中という状況にある。



3校が統合した田浦小学校



管理を民間委託した花岡浄化場

議会のごき

- 11月 4日 南九州西回り自動車道熊本県建設促進期成会後期要望活動
(国土交通省九州地方整備局)
- 11日 熊本県町村議会議員研修会
- 19日 第52回町村議会議長全国大会
- 20日 関係省庁及び熊本県選出国會議員に対する後期要望活動
(21日まで)
- 12月 3日 水俣芦北広域行政事務組合議会
5日 議会運営委員会・全員協議会
5日 熊本県町村議会議長会第4回理事会
11日 12月定例会(開会)
12日 12月定例会(一般質問)
12日 広報特別委員会
- 1月 5日 賀詞交換会
11日 芦北町成人式
26日 熊本県町村議会議長会第5回理事会
27日 広報特別委員会
- 2月 6日 議会運営委員会・建設経済常任委員会・総務常任委員会・広報特別委員会
9日 臨時議会



宮内議員

新議員の紹介

さる1月18日に町長選挙と同時に実施された町議會議員補欠選挙において、当選されましたのでご紹介いたします。

宮内氏は、平成20年3月をもって、永年勤続された芦北町役場において、高齢者対策課長を最後に退職されております。任期は残任期間となりますので、平成22年3月末となります。

また、欠員でありました文教厚生常任委員会委員と議会広報特別委員会委員に指名した旨の議長からの報告がありました。宮内議員の今後のご活躍を祈念いたします。

傍聴に来てください。



次回は、3月
初旬の予定です。

傍聴は、ルールさえ守っていただければ誰でもできます。

議会広報特別委員会

委員長	元山 秀志
副委員長	前田 徹一
委員	宮尾 秀行
宮島 康浩	白坂 秀行
古村 逸男	宮内 道則

世界が同時に、かつてない不況の中にあり、日本もまた世界不況から逃れることは出来ません。

誰が予測したのでしょうか？アメリカ発、サブプライムローン問題から端を発し、日本経済も急速に減速し、景気の後退を余儀なくされています。

景気の後退は地方ほど深刻な問題です。出口の見えない世界状況の中で、合併後初の町長選挙がありました。

大変厳しい情勢の中での、舵取りになりますが、芦北町の経営者として、期待を一身に背負って、我々も皆さんと議会のかけ橋になり、最大限の努力をしていきますので、今後一層の、ご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

(白坂)

編集後記

